

あべっ

厚別区民のページ 2009年2月号



1月1日現在 ()は前月比
 厚別区の人口 129,309人 (-39)
 男 59,881人 (-26)
 人口・世帯数 女 69,428人 (-13)
 世帯数 54,495世帯 (+37)

厚別区総務企画課広聴係

編集

〒004-8612
 厚別区厚別中央1条5丁目
 TEL 895-2400 内線224~226
 FAX 895-2403

厚別人

今月から題字が変わりました。
 書/映画監督 菅原浩志 (12月号で紹介)

有限会社ソノーク代表取締役
栗田 正樹

Profile (プロフィール)

くりた・まさき

※色弱のデザイナー・アーティスト。55歳。
 NPO法人北海道カラーユニバーサルデザイン機構 (以下、機構) 副理事長。2008年11月色弱の本を出版。厚別区在住。



「色覚」は特性。 私が伝えられることは？



▲パソコンを使った着色の様子

栗田さんは幼いころから絵を描くことが大好きで、夢はカーデザイナーになることでした。ところが当時は、希望した大学のデザイン学科に色覚制限があり、受験不可。気を取り直して建築の道を選び、国際学生コンペに入賞するなど、充実した日々を過ごします。

パソコンとの出会い

その後、デジタルアニメ制作の現場へ転職。「パソコンでは色をマップで選ぶので、自信を持って自由に色を塗ることができる。色弱でもデザイナーになれるしアートも創れる！」と爆発的に色を使い始めました。絵画のコンテストで大賞を取ったのもこのころです。

三年前から、多様な色覚

※機構の提唱する呼称に従っています。

悩まなくていい

日本人の場合、色弱は男性の二十人に一人、女性の五百人に一人の割合です。活動の中で、色弱の子を持ち悩んでいるお母さんと話をするうち「色弱は誰の責任でもないし、罪でもない。正しい知識を伝えれば救われる人はたくさんいる」と、自身の体験や色弱の仕事組みなどについて書いた『色弱の子を持つすべての人へ』(右写真)を昨年の十一月に出版しました。

違いは価値

「色弱は遺伝子の特性で、いわば血液型のようなもの。違っているから面白いし、創作のエネルギーにもなる」と楽しそうな栗田さんです。



▲プレゼント

※栗田さんからサイン本プレゼント (抽選で2人)。住所・氏名・電話番号、記事の感想を添え、広聴係(上欄)へはがき、ファクスでご応募ください。2月27日(金)必着。

